

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県

【学校名】 北九州市立思永中学校

【テーマ】 I II III IV **V**

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

ユニホックを通してホッケーを体験しよう。

【実施学年、部、講座等】

第2学年（男子126名・女子121名）

【目的・ねらい】

2016リオデジャネイロ・オリンピックに団体種目で出場内定は決めているものの、日本国内ではマイナーな種目で、経験する機会が少ないホッケーをユニホックを通して体験することによってオリンピックをより身近に感じ、スポーツの普及を図る。

【種類】(当てはまるものに○)

- ・各教科(保健体育) ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
- ・教科以外での取組 ()

【実践内容等】

(実施内容)

・保健体育科によるユニホックの体験授業



(ユニホックの用具について)

スティックは、ボールを打つブレード部分と手で握るシャフト部分からなる。

ボールは、プラスチック製の白色で、スピードが過ぎないように中が空洞で26個の穴があいている。

(本実践でのルールについて)

- ・男女各3人の班
- ・本来のゲームは6人1チームだが、生徒の実態に合わせ、一人一人がより活躍できるようにゲームに出るのは4名とする。
- ・試合時間(6分)内に選手は自由に入れ替わってよいものとする。





(ゲームの工夫について)

- ・ユニホック本来のルールに、安全面や運動量の確保の面から少人数化、ボーナス得点制度等の改良を加えた。
- ・より生徒が、ユニホックの特性や楽しさを味わえるとともに、動きの高まりを意図したルールや練習の工夫を行った。

(実践上の工夫点、留意点等)

- ・競技やルールをイメージしやすいように動画や掲示物の提示や紹介をおこなった。
- ・参加者全員が楽しんで、運動量を確保出来るようするとともに、動きの高まりを意図して、少人数か、コートの制限等のルールの工夫を行った。

(成果)

- 授業の最初に「2016 リオデジャネイロ・オリンピックに日本チームが団体で出場を決めている種目を教えてください」と質問したが全く正解がなかった。ホッケーの日本女子代表チーム「さくらジャパン」も全く知られていなかった。しかし、授業を進めていく内に「You Tube でさくらジャパン見たよ。」「バスケットの女子も出場するんやね。はやぶさジャパンと呼ぶんやね。」とオリンピックに対して興味関心を持つようになってきた。
- 空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開するゴール型の種目に共通する動きを身に付けるために、ユニホックの学習を取り入れた。用具でボールを操作する難しさはあったが、空間に走り込むなどの動きを身に付けていくとともに、より多様な球技の楽しさを味わうことにもつながった。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- 保健体育科の球技、ゴール型のねらう動きと関連させて取り上げていく種目を吟味していく必要がある。ユニホックを取り上げることによって、どのような動きが身に付き、高めていくことができるのか明確にすることが大切である。
- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会へ向けて、オリンピック・パラリンピック教育のねらいや内容について学校全体で共通認識をして取り組んでいく必要がある。